

神戸製菓専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2026年6月20日 実施】

2025年度自己点検自己評価(2025年4月1日～2026年3月31日)による

評価委員集計

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
1 教育理念・目的・ 育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	教育理念・目的・養成人材像は、明文化・文章化されており、事業計画に目標・方法等を具体化している。会議や研修等においては、理念等の徹底をしている。常に業界とのコミュニケーションを図り、産学協同での教育を心がけている。業界が求める人材像を明確にするとともに、教科目標・教育課程・授業計画等の策定に活用している。事業計画では「地域連携」「業界との連携」を掲げ、特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し、毎年見直しをしている。 今後は、教育をとり巻く環境変化や学生の質的变化に対応するため、地域における活動や業界との連携を深めつつ、カリキュラムには「教育課程編成委員会」のご意見やキャリア教育の実践を盛り込んだ内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、3つの建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)の実践、4つの信頼(学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼)を得られる様に学校運営する中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。『キャリア教育』についても、今までの人間教育を更に発展させるべく、教職員に研修の機会を設け、学生それぞれが、『キャリア設計』を実現できるよう取組んでいる。	3.9	・明文化された教育理念等は具体的に事業計画に落とし込まれており、また事業計画は毎年見直しが行われている。 ・業界との連携を中心に職業人教育を通じた社会貢献が毎年の見直しの中で着実に前に進んでいると感じます。 ・キャリア教育を主にする教育を主にする教育方法が良い。業界ニーズは幅広いので方向性を決める必要性があります。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか					
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	毎年、事業計画・運営方針を作成している。業界のニーズや環境の変化に対応した計画内容を作成し、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。	各セクションにおいて、事業計画、運営方針の策定段階で協議を深め、現状把握と今後の方向性の情報共有を図っている。	3.9	・組織体制、事業計画、運営方針は学校の円滑かつ効率的な運営を可能にしている。 ・意見決定システム、情報のシステム化も整備・導入の推進が図られている。 ・アンケート調査のフィードバックグループ校との連携、各セクションでのDX化の推進など、学校運営における様々な工夫が窺えます。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	計画を具体化していくためにはその計画が構成メンバーに周知され、理解されているかが重要なポイントとなるので、全教職員が学校運営に携わる環境作りを目指している。このことが、学校・学科の教育成果に繋がると考えている。	組織的に計画を遂行し、進捗状況を把握し、逐次見直しを行っている。また各学科・各セクションごとの事業計画を作成し、事業計画発表会を実施している。		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	運営のための組織図・職務分掌・会議の目的と主催者(決定権者)は事業計画に含まれており、会議・研修で共有している。会議、委員会等の議事録は開催毎に作成し、関係者に共有をしている。組織運営のための規則・規定を設け、運用に不足がある場合は、運営会議で検討し改正を行っている。	職員の職場に関するアンケートやストレスチェックを実施。職場安全推進委員会は本校だけでなくグループ校とも連携し、職場環境の整備にもあたっている。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けて職場環境の改善にも着手している。学校運営に必要な組織体制は整っており、今後も各部署間連携を活性化し可視化する。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で主催者に権限は委譲されている。	目標到達の運営指標を定め、会議内での運営数字チェックを定例化しているので数字からの問題発見が可能である。		
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	システムは、学生・入学者・卒業生・実習先・就職先等の対象別、教務・就職・広報等の業務別、において幅広く導入されている。学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。早期のDX化に向けて研修に参加。	今後は学内のシステムによる業務の効率化だけではなくインターネットを利用した学生や卒業生との双方向サービスの充実が重要となる。就職情報の共有やサポート、国家試験対策など効果的、効率的なサポートシステムの構築を目指している。各セクションでのDX化が重要。		

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	業界の求める人材育成のため、到達目標を明確にし、教育をフローで考え、専門職業教育とキャリア教育を行っている。入学後のオリエンテーションにおいて資格取得の必要性を説明している。	担当教員の研修に留まらず、取得の意義や取得指導などが計画的に行われる支援体制を整備している。滋慶学園グループ内における国家試験対策センターと連携し支援体制を構築している。 過去問題や設問への解説をMicrosoft Teamsでも実施。学習能力テストを実施し、学生の個別指導に活用している。就職セミナーを2回実施。仕事観、職業観を養うキャリア意識の形成を行っている。	3.9	・明確に定めた到達目標を基に、キャリア教育支援体制が整備されている。 ・Teamsの活用などで環境整備の工夫が感じられます。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	年2回開催している教育課程編成委員会での意見を集約し、又業界の講師の先生方には毎年2回授業評価アンケートをもとに、意見交換を行い、教育課程の見直しや、適切な評価システムの構築を図っている。 キャリア教育をセルフ・チーム・マネジメントの3つのマネジメントに分類し、実践しています。3つのマネジメントは能力項目に細分化し、学校行事や授業・実習その他を通じて習得できるようにしている。 定期的な振り返りレポート提出と、学生面談を通して授業理解度と評価をしている。	学生の授業理解度の把握、再確認を目的に小テストを行っている。授業の理解度を学生自身、また教員が把握すると共に学生においては復習の習慣づけやポイント整理の工夫をしている。適宜学生面談を行い、授業理解度を確認している。教育課程編成委員会での意見を踏まえ、授業評価方法等に反映させている。	3.9	・授業評価アンケート、小テスト等を通じて、学生お理解度を把握することに努めている。 ・キャリア教育の3つのマネジメントの継続的な実践をさらに進化させてほしいと思います。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価・履修認定については学則の「学習の評価」や「試験規定」に従い、実施しており、また教育指導要領や学生便覧においても明記しており教職員・学生に周知徹底している。保護者への周知も図っている。 成績不振の学生に対する学校のフォローも行っている。また、ゼミ祭、学園祭、卒業制作展で学生の成果を発表する場を設け、成果を把握している。	国家資格に関わる科目もその他の科目も評価基準を遵守している。また、明確な基準と共に学生一人ひとりに適した柔軟な対応が出来るよう、全ての学生が学科の評価基準を満たした上で進級及び卒業が出来る体制を構築している。	3.9	・学生はもちろん保護者にも周知が図られており、フォロー体制も構築されている。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	国家試験対策として教員がチームを組み、出題傾向を把握し実効のある対策講座を実施している。資格取得のサポート体制としては平常授業のみならず国家試験対策講座を実施し、国家試験対策問題を活用できる環境を整えており、また個別面談から補講まで状況に応じて様々な取り組みを実施している。	1年次には国家試験対策として数回の模擬試験を実施し、学生の学力レベルを把握しています。その結果をもとに、サポートが必要な学生をグループ分けしている。2年次には過去問題を活用した小テストを週2回継続的に実施し、弱点科目や弱点箇所を重点的に指導しました。試験前には個別指導を含む対策講座を実施し、理解の定着を図っています。また、昨年度からは Microsoft Teams を活用し、過去問題と解説を配信することで、学生がどこでも気軽に学習できる環境を整えています。デジタル教材の活用により、復習のしやすさと学習習慣の定着を促進しています	3.9	・1年生指導や補講、面談など状況に応じた指導サポート体制が構築されている。 ・昨年度より指導体制の細かな整備が窺え、この環境の維持とさらなる進化を窺えます。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	学科の到達目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであり、また、同時に教員要件を満たしている事が採用条件である。講師は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。 教員は、グループ主催の教職員カウンセリング研修、FD研修、マネジメント研修などに参加し、資質の向上に取り組んでいる。	講義を行う者は、その業界の現状に則した内容を教授できる事が理想である。現在実技科目の外部講師は、現場で活躍されている現役のパティシエやブーランジェ、和菓子職人、菓子店オーナーの方を中心に組織されている。 洋菓子実習専任担当者3名が技能検定1級を有する。	3.9	・教員の資質向上に積極的に取り組んでいる。 ・教員の資質向上に向けた取り組みは普遍的でしっかりと体系化されていると思います。 ・資格は必要である。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	開校以来、それぞれの学科の専門領域の就職・内定100%のために就職支援・指導を徹底し教職員一丸となって取り組んでいる。 組織としてキャリアセンターを設置し、教務との連携をはかり、業界の動向などを把握し、求人の獲得、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。	卒業年次を担当する教員が、学生一人ひとりの進路を把握するための面談を実施している。また、早期から「勤労観、職業観」を養うために1年生の後期から指導を行っている。また校内でも就職説明会を積極的に行っている。就職担当者をはじめ、担任教員のスキルアップを図っている。デジタル化が進む就職活動において通信設備(Wi-Fi)を設置。サポート体制を強化した。長期休暇中でも求人を見ることができるポータルサイトを活用し、学生がいつでも進路情報にアクセスできる環境を整えています。	4	・キャリアセンターの設置、業界動向の把握に努め、就職、内定率100%を目指している。 ・これまで同様、一人ひとりに寄り添ったサポートが行われていると感じます。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	4	国家試験に対しては常に合格率100%を目標としている。 免許取得に対する必要性を入学後のオリエンテーションで説明している。 2025年度製菓衛生師国家試験合格率:98. 5%	資格試験100%合格のための仕組み作りに全力を注いでいる。また、国家試験対策センターを中心に、更なる合格率向上を目標として、毎年国家試験受験対策に関する総括を実施している。 非常勤講師と連携し、担当科目の出題傾向等共有している。認知特性を活かした指導を取り入れている。能力別に個別指導を行っている。Microsoft Teamsを用いて過去問題の解説を実施。	4	・高い取得率を維持している。 ・昨年度に比べ、国家試験の合格率も上がり、順調だと感じます。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	卒業生の活躍は就職先からの評価や役職への登用が増えてきていること、実習指導の出来る卒業生の増加などから評価できると考える。今後、卒業生のみならず在校生においてもさらなる活躍が期待できる場を作り、広げていく取り組みが必要と考える。	兵庫県洋菓子協会や生菓子協会、製パン業界の方々との連携を図り、業界の求める人材育成に努めています。 独立開業者が近年多くみられる。 各種コンテストで入賞する卒業生の活躍が年々増えており、2025年度には2つの大会で日本一を受賞した卒業生も輩出しました。	4	・協会・業界との連携・情報収集を積極的に行い、人材育成に役立てている。 ・在校生にも活躍の場が確実に広がっていると思います。
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	学生支援の中でも就職支援に関しては就職率からも成功していると思われる。今後は面接指導の際に業界からの意見(求められる人材像)を今以上に反映できるような方策を検討し、学生に伝えていける体制を構築する。WEBを利用した就職活動への対応の強化をすすめている。	学生の就職支援として企業説明会を学内で実施していただいている。洋菓子協会主催の合同説明会に積極的に参加をした。就職対策講座を実施し、サポート体制を構築している。デジタル化が進む就職活動において通信設備の見直しを図りサポート体制を強化した。	3.9	・退学率お低減、就職率の進路に関するカウンセリング、支援体制が整備されている。 ・保護者との連携情報の共有にも力を注いでいる。 ・学生支援のバックアップ体制のさらなる強化が課題で、WEBの活用など様々な工夫をされていることが窺えます。 年ごとの成果でよいので、具体的な様子を知ることのできる機会があればと思います。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	専門のカウンセラーの活用、生活習慣の指導を含めた学生支援などのバックアップ体制をさらに強化する必要があると考える。学生ひとり一人を見ていき、少しの変化をいち早く気づき、チームでサポートしている。	学生サポートアンケートを実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。滋慶学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるよう研修を受け、資格を取得している。 担任、副担任制を導入。複数人でクラス運営を行っている。出席状況を確認できるツールを保護者へ配布し、家庭と学校が連携して学生支援を行っている。	3.9	
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	メンタル面・経済的な問題・健康面などの相談を受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。 日常的には学内の専門カウンセラー(顧問)と教職員がチームとしてアプローチし、保護者との連携を密に、問題の解決にあたっている。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	学生の経済的側面の支援は、事務局による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りをアドバイスできている。いずれも担任と連携を取り、学生の変化に気を配り注意している。 また、健康診断結果により再検査を必要と診断された場合の二次検診受診を積極的に促している。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など個々の学生の状況に応じたサポートを行っている。学費相談体制を強化し、各社との連携をサポートしている。	3.9	
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	本校のミッションである職業人教育や就職、また学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。	学内での状況を一番把握しているクラス担任を中心に保護者への連絡や報告、相談を密に行える体制・雰囲気を作るために入学前の学校説明会や入学式後に学校代表、学科代表、教職員に紹介などの場を設けている。学生ポータルサイトを運用して出欠の確認を行える体制を2025年度より実施。	3.9	
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	現状では学校側が中心となって実施しているが、今後は同窓会の運営をより充実させ、活発にするために同窓会役員が主体となり学校側が支援する体制を整えることを目指す。卒業生は学校の財産であり卒業生との連携はますます重要と考えている。	WEBなどを活用し、卒業生の近況の情報収集を行っている。卒業後1年目と3年目の卒業生を対象に、離職状況の調査をキャリアセンター中心に実施しています。継続的な追跡調査により、就職後の定着状況を把握し、今後の指導やキャリア支援の改善につなげています。	3.7		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか						
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4	実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。衛生面でも衛生委員を編成し、衛生管理に努めている。	厚生労働省指定製菓衛生師養成施設であり、手洗い設備と各教室全室に複数手指消毒アルコールを設置、衛生管理をしている。学生には登校時、「アルコール」で除菌を習慣にしている。又実習器具、機材、実習台ほか実習終了時清掃と乾熱消毒を徹底指導している。 施設・設備は専門業者による定期点検、清掃を行なっている。また職員の衛生委員を招集し、毎月定期的な衛生点検を行っている。	3.9	・設備・施設環境は高いレベルで整備されており、また衛生面においても、また、衛生面においても万全な体制で構築されている。 ・坊愛訓練に関しては継続を希望します。 ・全体的に環境の整備については配慮が行き届いていると感じます。海外研修については現状、難しくなっていることも理解できます。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	授業の一貫として学外実習(店舗実習)を実施しており、実習先との打ち合わせから学生の実習前教育、報告会、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化しており、実施体制は整備されている。	学外実習は校内において学外と同じ教育効果が得られるカリキュラムを実施し、学外と並行して学内実習の内容に変更し実施した。	3.9	
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	防災訓練を通して、学生への動機付けは出来ていると考えられるが、緊急時の対応も出来るように、全教職員を対象にCPR研修を実施している。	防災訓練 AEDの設置:毎月1回の定期点検を実施している。 昨今の自然災害や地震が憂慮されており、更に体制整備を行っている。 1階エントランスに防犯カメラ・教務室にさすまたを設置した。	4	
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	本校は、兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守しています。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適正に学校募集が出来るように配慮しています。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めています。	オープンキャンパスへの参加は、複数回参加を促し、疑問がきちんと解消できるよう仕組みを構築している。また、出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう入学前教育で入学までの目標目的を継続するためのアプローチを実施している。 また10月までの合格者に対しては、学費減免を目的とした特待生選抜制度の勉強会を開催しており、勉強会への参加を促している。	3.7	・ルールを遵守した募集、入学選考基準及び学費の設定(入学辞退者に対するもの含む)は、明確かつ適切に運用されており、また無駄な支出が出ないよう適宜見直しが図られている。 ・オープンキャンパスの参加者が最も入学の可能性が高い学生になると思うのでそこの説明や工夫に大きなエネルギーが注がれていることがよく伝わってきます。 ・オープンキャンパスの必要性が高まっています。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的にを行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施しています。また、選考終了後は選考会議により可否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来製菓製パン業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。 選考会議の議事録を作成し適切に実施している。	アドミッションポリシーに基づき、将来の希望分野への適正をきちんと見極めるため、面談を重視しています。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。 また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、よりやる気を重視した学生確保にチャレンジしている。 高等学校との連携を密にし、AOエントリー時担任への報告を促している。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	毎年、各学科において教科書、教材の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出がないかチェックしている。入学辞退者に対して授業料等について募集要項にも記載のとおり適正な取扱いを行っています。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか					

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	3.9	・中長期的な視野に立ち、予算編成がなされており、私立学校法に基づく財務公開体制も整備されているなど適切に学校運営ができています。 ・私立学校法改正にも対応され、適性に行われていると理解します。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	5年を見越した収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックするため現実に即した予算編成になっている。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成している。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けていますが、それに加えて、「監査法人による監査」も受けている。これによってより適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力をしている。		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財務情報公開の体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していく。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局次長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。 ＜公開書類＞ 1. 財産目録2. 貸借対照表3. 収支決算書4. 事業報告書5. 監査報告書		
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	3.9	・適正かつ適切に学校運営ができており、問題は見当たらない。 ・適性・適法に行われていると理解します。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	個人情報保護の体制はできている。個人情報保護の教職員への啓蒙として、一般社団法人日本プライバシー認証機構による、学校責任者はCPO認証資格、教職員はCPA認証資格のe-ラーニングによる更新受講を行なっている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記しています。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	自己評価・自己点検の結果、教育情報をホームページに掲載している。	下記HPアドレスにて情報公開しています。 http://www.kobeseika.ac.jp/info/		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか						
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	職業教育を通して社会に貢献することが我々の使命であるが、卒業生や在校生本人のみならず、彼らを取り巻く社会環境や業界、さらには学校が存在する地域の信頼を得ながら、その役割を果たしている。 留学生を対象にした連携授業の実施。 神戸市が運営する児童センターにおいて小学生対象のお菓子教室を実施。	教育プログラムの一環として社会貢献・地域貢献に取り組んでいくシステムづくりを検討している。	3.7	・引き続き、地域に愛される学校を目指してください。 ・社会、地域貢献に継続的に尽力されていることが窺えます。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					